

校報かめのこ

福生六小ホームページ <http://fussa-6e.hs.plala.or.jp/>

か	考える子
め	めげない子
の	伸びる子
こ	心豊かな子



だから教師はやめられない

福生市立福生第六小学校
統括校長 榎並 隆博

福生市内の学校で6年生を担当していたときの話です。市民会館で行われる音楽会に、学校を代表して参加するため、子どもたちが合唱の練習を始めました。当時の音楽会は、青梅市を除く西多摩地域の全校がこの音楽会に参加しているというかなり規模の大きな行事で、各校の音楽専科の先生達も随分気合いが入っていたようです。

5年生から男性3人で担任していた子どもたちですが、合唱については頑張ればきっと三部合唱ができるだろうと3人の見解が一致し、音楽専科に三部合唱への挑戦をお願いしました。選ばれた曲は「モルダウ」でした。ヨーロッパに流れるモルダウ川の情景を、緩やかな曲調から始まって、次第にその雄大さを感じさせる曲調へと変化していく、合唱曲としてはよく知られた曲です。専門家ではないので、その難易度は分かりませんが、さすがに三部合唱は初めての子どもたちにとって、苦労が多かったようです。パート毎に別れ、朝練や中休み、昼休み、放課後等、授業以外に隙間の時間を見つけては、一生懸命練習を重ねていました。

音楽会本番が近付くと、体育館で全体練習が始まります。担任3人も毎回立ち会いました。練習の最後は、いつも担任3人が一言ずつ感想を述べ、最後に音楽専科ができればの振り返りと次回の課題を伝えます。担任3人のコメントは、ほぼ精神論で、聞いている子どもたちもきっと頭の中が「？」になっていたと思います。今更ながら反省です。

本番当日を迎えました。この日は1時間目の授業前に体育館で全校集会があり、そこで6年生が1年生から5年生を前に「モルダウ」を披露することになっています。そのため、6年生は体育館に朝早くから集合し、声出しを含め最後の練習をしました。

子どもたちがひな壇に並んで歌うときの担任3人の位置はいつも同じで、舞台に向かって一番遠い壁に背中をつき、腕を組み、足を交差させるという、とつても威圧的な態度で立って聞きます。これも今更ながら反省すべきことです。

最後の練習です。歌い始めてしばらくすると、次第に子どもたちの声量が弱くなり始めました。音程もずれ始めます。本番前の大事な最後の練習に、いったいどうしたんだろうと、担任3人も同時に顔を突き出しながらひな壇の方に向かって歩を進めます。よく見ると子どもたちは、泣きながら歌っています。「えっ、どうしたの?」と更に近付いてよく見ると、指揮をしている音楽専科も泣いています。

真相は、最初に指揮者が泣き始めたようです。ここまで頑張ってきた子どもたちへの賞賛の思いが溢れてしまったそうです。それを見た子どもたちは、指揮者の思いを受け止め、涙を流しながら、懸命に最後の練習に力を尽くしたようです。

音楽って凄いな。教育っていいな。そう感じる事ができた出来事でした。